第一群

第一群は二つの系統より成立して居る。第一は子母口式と称せられるものに該当し、第二は茅山式と呼ばれるものに略々一致する。前者は我々の知る範囲では子母口貝塚に於て主として発見され、他の遺跡では他種古式土器と混じて、その小破片がごく稀れに見出されてゐるにすぎない。同貝塚から発見する土器は、比較的少量であつて、未だその完形品を発見しないが大形の破片より推定すれば、器形は変化に乏しく深鉢形を呈するものが多い様である。この深鉢形の中には更に二種の別があり、一は口頸部に反がなく漏斗形を呈するもの、他は口頸部がや、外反し、頸部が多少しまり胴部の張つてゐるものである。底部形態は円底又は尖底或ひは乳房状をなす物のみで平底は非常に稀である。製作は概して厚手、中厚手のものが多く、厚手粗雑で焼成もあまり充分でなく吸水性に富み、洗滌によつて容易に溶解し、又は表面の崩落する程度の物も相当存在する。土質は稍粗く内部に繊維を多量に含んで居る。縄紋は極めて稀で子母口貝塚各地点の土器を通

延ては固有の家族制度の崩壊を来たし、人口増殖力、特に出生率の著しき減退を惹起する事実が存在する。従つて　日本民族を配置するに當つて固有の家族制度を破壊させてはならないのであつて　此の点特に注意を必要とする。家族制度を破壊しないやうな形で配置するといふことになると、　配置する場合の社会の構造、居住の形態を考へなければならなくなること云ふ迄もない。嘗ての「日本人町」が如何なる機能を営み、何故に「日本人町」が滅んだかといふことも、かやうな立場から改めて考へて見なければならぬ。

今、試みに、　上記の諸事項を考慮しつつ、昭和二十五年迄に、大東亜主要地域につき配置すべき内地人人口を算定すれば大約以下の如くである。

昭和二十五年に於ける内地産業別有業人口を推計すれば大凡次の如くである。

民政策を廃止して翌一九二八年（昭和三年）北伯人三千人を誘入して各耕地に配耕した。爾来北伯人は年と共に増加し、聖州入移民中の主要な地位を占むるに至つた。

第二十五目　日本移民の進出

斯様な情勢の下に於て第一次大戦後日本移民は漸次的に其の数を増加し、特に昭和二年の聖州政府の補助移民政策廃止後は著しく其の頭角を現はし、昭和四年に於て遂に入州外國移民中首位を占むるに至り、爾後其の地位を持續して聖州労力不足緩和上尠からざる貢献をなし、往年の伊太利移民に代つて、日本移民進出時代を出現した。而して日本移民が伯國殊に聖州珈琲園に於て歡迎された主なる理由は左の如きものである。

一、第一次大戦後歐洲移民殊に伊太利移民の入國減退せること

二、聖州補助移民政策中止後は日本移民以外に多数纒つた家族移民を